

## 社会に出た後にも生きるノートテイキング力の育成とその指導

### —実験的・実践的な検討—

劉 夢思（東京大学 教育学研究科 大学院生）

#### 【研究の背景と目的】

われわれは何らかの情報が提示された際に、それを取捨選択したり、選択された情報を整理したり、さらに既知のことと統合したりとする生成的学習（Mayer, 1996; Jairam & Kiewra, 2010）のスキルは社会に出てからも求められる。例えば、会議中に手元の資料に要点だけを記入したり、途中で気づいたことを書き留めたりするのである。このような社会に出た後にも求められる情報処理能力や考える力については、学校教育の段階で育てられることが重要である。一方で、日本の学校現場では、白紙にメモをとることが主流となっている。そのため、ただ板書に書かれたことを書き写す学習者の姿が少なくない。しかし、受動的な行動で生成的な処理に至らず、むしろ学習をネガティブな影響を与えることが知られている。そこで本研究では、学習者のノート取り活動に着目し、その効果的なあり方や指導方法について検討することとした。研究1では授業理解を促す効果的なノートテイキングを実験デザインにより検証した。研究2では、研究1で検証した効果的なノートテイキングが、学力や意欲の低い学習者に対しても有効であるかを実践的に検討した。さらに、研究3では、このようなノートテイキング力を学校現場でどのように育成するか、現場の教師と連携して実践的に検討した。

#### 【研究1 授業理解を促進する効果的なノートテイキングの検証】

**目的** 研究1では、ノートテイキングの認知的・メタ認知的効果を引き出す深いノートテイキング（Liu & Uesaka, 2022）と授業中の認知負荷を考慮し、教科書に直接書き込む介入が授業理解を促進するかどうかを検証する。

**方法** 深いノートテイキング方略への介入（あり・なし）とノートテイキングの媒体（教科書・白紙ノート）を要因として、2x2の実験デザインを用いた。都内の公立高校1年生94名を対象に、ランダムに4つの群に分けた。

**結果と考察** 二元配置分散分析の結果、深いノートテイキングの介入は有意な主効果（ $\eta_p^2 = .10$ ）が見られ、深いノートテイキングの介入が数学の授業における深い理解を促すことが検証された。一方で、教科書に直接書き込む指示の効果とその交互作用については有意な結果が得られなかった。この結果より、普段から教科書への書き込みに慣れていないことも理由と考えられるため、今後はより長期的な実践の中でその効果を検証する必要があると考えられる。

#### 【研究2 貧困支援施設におけるノートテイキング力を育成する実践の展開】

**目的** 研究1で検証した深いノートテイキングが、貧困を背景にした低学力・低意欲の傾向を持つ生徒たちに対しても有効であるかを、実践的に検討した。具体的には、彼らのノートテイキング活動の現状を踏まえ、より適応的なノートテイキング方略の講座を開発・実施し、その効果を検証した。

**方法** 都内の生活保護受給者世帯向けの学習支援施設に通う中学1年から3年生（ $N = 53$ ）を対象とした。実践前後で生徒の通常のノートテイキング活動を把握するためにアンケート調査を実施した。方略を指導する講座の設計については、事前調査からの実態に基づき、施設の職員と共同で設計・実施した。

**結果** 実践する前に生徒たちのノートテイキング活動に大きなばらつきがあることが確認された。また、講座の5ヵ月後には、指導したノートテイキング方略の使用が増えたことが示された。

#### 【研究3 学校現場におけるノートテイキング力を育成する実践と効果検証】

**実践の概要** これまで検証した効果的なノートテイキングが学校教育の中でどのように育成されるかを検討した。研究1の実験による検証や研究2の貧困支援施設での実践は、深い理解を促進する授業中のノートテイキングに焦点をあてたが、学校現場に展開するにつれて、とったメモをどのように活用して授業後の理解の深化まで視野を広げた。具体的には、まず予備実践として、これまで得られた知見を参照し、教員と協働で指導の講座を設計・実施した。また、予備実践から得られた知見に基づき、高校の教師1名と連携し長期的な指導実践を展開した。

#### 【総合考察・今後の課題】

本研究では、社会に出た後にも生きるノートテイキング力の育成を目指し、認知心理学の視点から効果的なノートテイキングを実験的に検証し、その上で現場への応用も検討した。今後は、これまで貧困施設や学校現場で開発された指導講座の素材を活用し、より多くの学校での展開可能性を追求することを期待する。